

### 西区民文化センターまつり



## 日ごろの成果を発表

広いホールに和太鼓が鳴り響きました。芸能発表には、写真の井口浄太鼓など、60団体、約800人が出演しました。

2月10日(土)と11日(日)、西区民文化センター(西区横川新町)で西区民文化センターまつりが開催されました。2日間で約5,500人が訪れ、自慢のホールでの芸能発表をはじめ、人形劇、いけばな展示、お茶席などを楽しみました。また、区内の3作業所(かざぐるま舎、ふれあい作業所、ワークショップ西広島)による福祉バザーも好評でした。

このまつりは、公民館や西区民文化センターなどで文化活動している団体を一堂に会し、日ごろの稽古や練習の成果を区民の皆さんに披露することと、連帯と技の向上を目的に、西区民文化センターの10周年を記念して、昨年からはじめました。

お茶席は順番待ちができるほどでした。



### 西区民作品展も併催

2月10日から18日まで、西区民作品展がこのまつりとともに開催されました。書、絵画、写真、陶芸など、246点の応募がありました。平成元年の西区民文化センターのオープンから始まったこの作品展は、今回で12回を数え、区内に住むか通勤・通学されている人ならだれでも出展できる区民ギャラリーとして定着しています。

### WEST21 パソコンボランティア

## パソコンにふれて楽しもう



子どもたちはパソコンが大好き。ゲームやイベント(お絵かき)を楽しみました。

当協議会のホームページを作成しているWEST21パソコンボランティアでは、2月11日、西区民文化センターまつりに参加し、訪れた人々にパソコンを体験していただきました。インターネットを楽しんでもらうほか、希望者にはデジタルカメラで記念写真を撮り、それを卓上カレンダーに挿入してプレゼントしました。

WEST21のメンバーが体験コーナーを設けたのは、昨年11月に開催された“西区民まつり”に続き2回目です。今後とも機会があれば、このようなイベントに参加して、パソコンを通して多くの方々とふれあってみたいと思います。

## おめでとう西区誕生20周年



己斐学区体協40周年、己斐学区町民駅伝大会

### 一般の部

## 強豪邑智町をおさえ西消防署が初優勝

2月18日(日)、己斐地区のもみじが丘と高須台パークタウンを周回コースとする第14回己斐学区町民駅伝大会が開催されました。今回は己斐学区体協40周年という記念大会であり、周辺の己斐東学区、己斐上学区、高須学区のほか、西区役所、西消防署、公民館が参加し、昨年を上回る86チーム(1チーム選手6人)が出場しました。競技は小学生が低学年・学年別・フリーの部、中学生が男子・女子の部にわかれて行われ、注目の一般の部では連覇を重ねていた強豪島根県邑智郡邑智町チームをおさえ、初出場の西消防署チームが優勝しました。

### 邑智町が自慢のそば850杯分用意 食を通して交流

邑智町は15年前から己斐地区の子ども会と交流を続けており、前日から泊り込んでこの大会に備え、一般の部に2チームが参加しました。大会当日は名物のそばを例年より多



「友達とチームを組んで走れたのが一番嬉しい。トン汁のお代わりもできて最高!」  
もみじが丘子ども会のみなさん

い850杯分(無料)用意し、駅伝とともに食を通じて交流を深めました。また己斐学区体協自慢のトン汁も振る舞われました。

走った後は、選手も応援の人と一緒に、そばやトン汁をほお張りながら、互いの健闘を称え合いました。

成績結果など、詳しいことはホームページを

## 地域の足として、もうすぐ2年

一昨年（1999年）の4月から、従来の大型路線バスに代わり、39人乗りの小型バス『ボン・バス』が広島市西区のJR西広島駅前から己斐地区の団地を3路線走っています。昨年1月には、隣の佐伯区の団地にも1路線。まもなく運行開始から2年になるボン・バスは、計4路線延べ日390便が地域に密着した住民の足として好評です。



JR西広島駅前のバス乗り場で



高齢者や体の不自由な人にも配慮したスライドステップ機能

### キャッチフレーズは『優しさ』

愛称の「Bon-Bus（ボン・バス）」のBonとは、フランス語で『優しさ』と感謝』を意味しています。

小型のバスなので、従来のバスに比べ、環境に優しく、狭い道路でも離合がスムーズにでき、また楽に乗れるようにドアが開くとステップが出てきます（写真参照）。接遇の面でも、乗客の立場にたったサービスが伺えます。中国新聞（2000年3月30日、夕刊）に、こんなエピソードが載っていました。

「ボン・バスがバス停に急ぐ高齢者の夫婦を追い越した。『大丈夫ですよ。バス停で待っていますから』。運転手が車外マイクで話しかけた。先に行って待っていたバスに、夫婦が乗り込んだ時、乗客から拍手が起きた」。

地域のお世話をされている己斐上学区社会福祉協議会の住元忠雄会長は、「己斐地区の団地は、広島市の繁華街から比較的近いうえ

自然環境にも恵まれているので、開発はわりと早く、昭和40年代から大規模な造成が始まり、50年代の中ごろには団地の骨格ができました。今では高齢者が増え、バスに頼る人々が多くなりました。次のバス停をテープのほかに、運転手さんがマイクで親切に案内してくれ、料金を払う時もあせる必要がありませんから、安心して乗って大変ありがたいです」とボン・バスの導入を喜んでおられます

### 4路線に一日4,800人が利用

このバスを運営しているエイチ・ディー西広島（株）は、『ふれあいを大切に』『地域とともに』を目指して、1999年（平成11年）4月、それまで大型バスを運行していた広島電鉄（株）から3路線を引き継ぎスタートしました。今では、4路線延べ日390便に増え、一日平均利用者は約4,800人にのぼっています。

もうすぐ2年になるボン・バスは、人と環境にやさしく今日も快走しています。

## 地域とのふれあいを大切に

ボン・バスは、公民館まつりなど、地域のイベントに積極的に参加しています。写真により、親しまれている様子を紹介します。

### コミュニティーボード



地域の行事は、運転手席後ろの『コミュニティーボード』に無料で掲示することができます。

### みんなのボン・バス写生大会



昨年（平成12年）3月24日、己斐地区の公民館（己斐・己斐上）と五月が丘公民館の3館合同で『みんなのボン・バス写生大会』を開催。親子連れら約270人が参加し、楽しい春休みの思い出となりました。

### 今年もみんなでボン・バスを描こう！

#### 平成13年写生大会

とき／3月24日（土）9:00～13:00

雨天の場合は、翌日に順延

ところ／己斐地区：己斐地区運動広場

五月が丘地区：五月が丘近隣公園

対象／小学生、幼稚園・保育園児

申込みや詳細は、己斐公民館（TEL 273-1765）、己斐上公民館（TEL 274-7814）、五月が丘公民館（TEL 941-2121）へ

### 子どもサマースクール

#### ボン・バス職業体験コース

働くことの大切さを知ってもらおうと、夏休みに子どもサマースクールを己斐公民館と己斐上公民館と共催。昨年（平成12年）は23人が参加し、暑いなか、子どもたちは貴重な体験をしました。



走行前、タイヤのネジはゆるんでいないか。タイヤにひびが入っていないか。柄の長いハンマーでたたいて点検します。

アナウンスのリハーサル。間違いないように。緊張します。



運行が終わったら、バスの床をモップでふいたり、窓を雑巾で磨いたりします。それで、一日の任務が終了しました。